



No.108

新設図書館の紹介

浅口市立寄島図書館

利用者がある度に鍵を開けての対応でした。

平成十五年、金光町立さつき図書館が誕生。数年前から図書館建設の住民運動が起こっていた寄島町民の「我が町にも生涯学習・文化の拠点寄島図書館を」の願いは、平成十八年三月の三町合併による、浅口市の誕生で、一気に実現にむかいました。図書購入費の大幅増額・現有図書の内七千冊の登録（バーコード・ブックカバーつけ）。さらに、二館（さつき、鴨方）一室のシステム統合により、一枚の利用者カードで、約十七万三千冊の図書が、何処でも借りられ返却可能となりました。



寄島図書館は、平成二十一年四月一日、旧寄島町役場三階の空き部屋を改修しオープンしました。

それまでは昭和五十一年に建設された、町総合福祉センター兼寄島公民館（当時としては十四室を備えた浅口郡内最大規模の社会教育施設）二階の一部屋が図書室として供用されていたのです。築後三十年以上経過した公民館図書室は、手狭で、資料も少なく、冷暖房の効きも悪くありませんでした。常駐の職員もいなかったため、

公民館から旧役場へ。平成二十一年三月の書架・図書の移転は、業者委託一切無し、市関係部署職員での作業でした。嬉しかったのは、苦しかった半月の作業で、二館・一室の職員十六名が強い絆で結ばれたことです。

寄島図書館テーパーカットから三ヶ月。図書室時代より、入館者・貸出

冊数は大幅に増加しています。六月二十日現在の蔵書は八千七百冊（一般書五千九百冊、児童書二千八百冊）。市内三館資料が検索できるOPAC・インターネット用パソコン・拡大読書機を備えました。

本館のキャッチフレーズは、「海を眺めながら読書の出来る図書館」です。南の窓際に並んだ八脚の椅子は好評で、今も常連さんがゆったりと腰掛け、新聞をひらいています。空気が澄み、晴れた日には、南東の方角に美しく輝く「瀬戸大橋」が浮かびあがります。また「海の資料をどこよりも揃える」を目指しています。



図書館建設の大きな力となった「寄島図書館友の会」は、目的達成とのことで休会。間髪をいれず「寄島図書館ボランティア」が誕生しました。七名の意欲溢れるベテラン女性、毎月第四土曜に、「絵本と紙

芝居のたまたま箱」と銘打ち、幼児・児童対象に活動を開始しています。四月の第一回には、手品まで披露。好評を博しました。本図書館の充実と共に、玄人はだしのグループとなる予感がします。

コンパクトな館のため、貸出冊数は、五冊まで。しかし絵本や紙芝居はもつと多くとの要望もあるため、十冊程度に改定の予定です。小さいが故の長所、随所に気配りが行き届き、居心地のよい図書館づくりを目指して、四名の職員がお客様に接しています。（平田記）

☆個人会員の紹介☆

早島町立図書館 司書 丸山 桂子



図書館に勤務してから経験年数が浅い私に指名をいただいたからには、これを書けと言うことだろうと想像して、少しばかり気合を入れる。司書の立場からは多分にずれたとこ

ろがあると思うが、郷土資料に関するということ、ご了承いただきたい。

平成二十年に有志を集めて郷土に関する本を自費出版した。題して『玉島千歳楽誌』。ちなみに千歳楽とは備中沿岸域で町内ごとに担がれる秋祭の山車で、つまりは郷土の祭の本になる。作成のきっかけはささいなこと、祭に関するマニュアルが欲しいと言われたからだ、べからず集はとも作れない。けれども祭の現状というものを浚えて、なるべく詳細なスケッチが描けるならば、それは五十年後、百年後に意味があるのではないかと考えた。地域の祭というものは、現在多くの地域で衰退局面にある。それは、少子化の結果であったり、生活様式や価値観の変化の結果であったりする。しかも、それらの伝承や記録、保存といったものはまだまだ未整備で、いづれ「昔は祭に屋台が出てにぎやかだった」という昔語りに語られるのみである。文化というくくりの中で相対的に地位の低い秋祭、ましてはその山車でも、それを行うことは、地域に暮らす我々が一年を大切に過ごすということでもあり、人生の、ささやかな指標でもある。それを示してみたいという思惑もあった。ハイカ

ルチャーのみが文化でもない。だから、自分が作れるものは絶対に大したものではないはずだが、ないよりはましなら残してみたいと考えた。

それに、本として、形に残すことができれば、必ず誰かがその先というものを紡いでくれるだろう。いつか誰かがきちんとした記録を残す、そのためのたたき台なら作ってもいい。いつかの誰かを信じてみれば、少しくらいの批判は我慢できる。大丈夫。大丈夫。多分、大丈夫。

本を作成するに当たってまず、項目を立てる。現在というものを捕らえるためにどれだけの補助線が有効かを考える。百年後に何が判らなくなっているか、判らないからだ。そこで、地域の沿革・神社史・千歳楽運行時の太鼓の叩き方・道中歌・一日の行程・青年団・各町内の七項目を挙げた。次に図書館資料等、記録資料に当たる。ただし残っている記録は多くない。記録されなかった過去は失われる。このあたりで、郷土史を編んだ人々のありがたさを痛感する。

調査のメインは聞き取りだった。郷土の情報はネットワークが重要で、有効な情報を持っている人にたどり着けるかどうかが問題になる。そして、その町内や地域で責任も、経験も、知識もある人に一人めぐり

合えると、そこからはその人のネットワークを介して次の人を紹介してもらえる。だから、私の作業は本の作成と言うより、関係者の話を集めて整理して項目ごとに情報を流し込むといったことになる。最初の一人に出会えたとき、これは行けるかもしれないとはじめて思った。

実際に印刷しようとして、費用がないことに気がついた。そこで、あちこちの助成金を申請してみる。幸い、倉敷市文化振興基金、福武教育文化振興財団、マルセンススポーツ・文化振興財団の三団体から助成を受けることができた。晴れて、上梓の運びとなる。一冊の本ができる。思えば六年がかりの作業になった。間四年間はなにもしてないけど。この程度だという反省もあるし、ここまできたという自負もある。どちらも本音だ。

生活の記録というものは、意図的にしておかなければ、失われる。当たり前前すぎたものがなくなる時、それは一瞬の出来事で、一度失われてしまえば、二度と再現はできなくなる。記録というものは、どうしたって、その事象の全てを表すことができないのだから。なぜならば我々は記録する時点で、情報の取捨をしているのだから。これから先の人々が、どのような情報が必要とするかは、

我々には、判らない。

そういう訳で、郷土の本を作った過程をお話してみました。矢張り図書館員の枠から外れたことを書いた気がします。すみません。ごめんなさい。

では。乱筆乱文失礼いたしました。

図書館のディスプレイ

津山市立図書館訪問取材！

Q どんなコーナーがありますか

いままでも郷土作家を紹介する意味で郷土ゆかりの作家別のコーナーがありました。昨年から常設のコーナーとして七月に「ビジネス情報コーナー」十月に闘病記文庫も含む「健康情報コーナー」児童の関係では平成二十年十月に「ティーンズ」コーナーを設置しました。これ以外に展示コーナーに関連図書展示を行ったり、特集展示として一般書に二コーナー児童書に二コーナーあります。そのほかに現在は四月二十八日から「新型インフルエンザ」の情報をおいているコーナーがあります。



「ビジネス情報コーナー」



「新型インフルエンザコーナー」

Q 展示に力を入れるようになってはいつごろですか

図書館は市民の情報源としてさまざまな資料や情報がありますが、市民にとって「役立つ」と実感できるためにはそれらの資料がわかりやすく、また手に取りやすい形で配架されている必要があります。市民の抱いている図書館のイメージは「子どもの本」であったり、小説、趣味・教養であったりしますが、図書館はそれ以外にもっと活用できる資源があることをわかりやすく「コーナー」や「展示」の形で提供

しています。

特に一昨年から図書館としては、「ビジネス支援講演会」「健康セミナー」「シリーズ安全・安心」などの行事を行うことで、仕事にも使える、健康に不安があるときにも情報源があるということを図書館内の資料の展示・配架と連動して市民に提示しています。資料としてはこれまでも図書館にあったものですが、これらをいかにわかりやすく取り取って市民に図書館の働きを理解してもらおうか、利用してもらおうかが大切だと考えています。

Q 観光情報の展示について教えてください

昨年夏から「観光情報エクステンジ」という名称で展示コーナーを利用して県外各地のポスター、パンフレット・チラシなど観光情報を展示しています。これは、図書館間のネットワークを利用して相互の図書館で交換展示を行う試みです。実際に地元に行かなければ手に入りくいパンフレットや現地の案内を提供してお客様に喜ばれています。また図書館同士ですから地域の文化を紹介する資料(図書)などを共に展示しています。

この事業は情報発信と実際に観光

客が動くことでの経済効果を期待することができ、双方の図書館にとって有意義な企画となっています。利用者からは見えにくい「図書館間のネットワーク」を目に見える形で紹介できる効果もあります。また観光振興課との連携も生まれ、トリプルWINの関係を作りつつあります。津山市立図書館ではこれまで鳥取県立図書館、智頭町図書館、高知県立図書館、坂出市立大橋記念図書館、愛媛県立図書館と交換展示を行っています。



「観光情報エクステンジコーナー」

Q テーマはどのように決めていますか

特集展示はその時々で季節にあわせたり、行事の企画に連動したりいろいろです。六月は岡山県の「いじめを考える週間」にあわせて津山市

学校教育課と連携して「いじめを考える」展示を行いました。



「いじめを考える」

Q 利用者の方の反応はいかがですか

「ビジネス情報コーナー」には商工会議所やハローワークなど、各所からもらってきたパンフレットなども一緒においています。このコーナーをとっかかりにして図書館内の他のビジネス情報にアクセスしていただけるようにしていきたいと思えます。ビジネス情報コーナーで本を手にとられているお客様やビジネス・スーツのお客様も増えてきたように思っています。仕事に関わるレファレンスもいただくようになってきました。

特集コーナーに本を置くと、やはりよく利用されます。職員が油断していると展示している本が貸し出さ

れて展示コーナーから本がなくなっていることもあり、気が抜けません。展示を終了してコーナーのテーマを変更した後で「読んでいる途中の本がなくなった」とおっしゃられて探したこともあります。

Q 反響が大きかった展示は何ですか

昨年の夏に津山市情報政策課の地
図情報と共同で行った展示では図書館の入り口の床に津山市の航空写真を貼って航空写真の上を歩いて「ガリバー体験」してもらいました。ご自分の家を探したり、職員や他のお客様と思いい話をされたり、企画側が想像した以上に楽しんでいただきました。

Q 利用者から、展示リクエストがあつたりしますか

この三年間「みんなで作ろう！津山さくらMAP」の展示をしています。津山は鶴山公園の桜が有名ですが、市内にはそのほかにもたくさん
の桜がありますので、市民から桜の情報を募集して展示します。実際にお花見に行かれない方もこの展示を楽しみにしてくれています。出来る範囲で、市内の開花情報も提供する

ようにしています。「今年もさくらMAPやるよね」と楽しみにしていただける展示になっています。

Q 展示で、特に工夫していることや強調していることなどありますか

市役所や県の施設、観光情報エクスチェンジのように他県の図書館との連携で行う展示があります。展示や特集は図書館からの情報発信です。なおお客様に魅力的な展示がいいのはもちろんですが、図書館の来館者の多さから（津山市立図書館では一日平均約千三百人）、一般市民に対して広報できる場所として連携をする部署にとっても魅力があります。連携する部署にも図書館の広報力も知っていただけるチャンスだと思います。

お客様から言うと展示や特集コーナーはいつでも何かが新しい、楽しいことのある図書館になるポイントだと思います。デパートの商品展示と同じく特集コーナーの資料の切り出し方では司書の腕とセンスの見せ所だと思います。直接お客様の反応を得やすい仕事でもあります。固定的な「図書館」のイメージから一歩踏み出せる展示や特集が出来たらいいと思います



「観光情報エクスチェンジコーナー」

「子ども読書週間に関する行事」について

岡山市立中央図書館

岡山市立中央図書館における「子ども読書の日」(四月二十三日)および「子ども読書週間」(四月二十三日～五月十二日)に関する行事について紹介させていただきます。

岡山市立図書館でも他の図書館と同じように「子ども読書の日」にちなんだ行事を毎年行っています。

行事を行う場合、「子ども読書の日」や「子ども読書週間」にあわせて特別行事と、子ども読書週間中の通常行事の時間を延長したり、内容に変化を持たせたりして特別版とし

て行う場合があります。

中央図書館では例年通常行事はそのまま行い、「子ども読書の日」前後の土曜日か日曜日に「子ども読書の日よせて」と題し、特別行事を行ってきました。

しかし、今年度は「子ども読書週間」について少しでも広く知っていただけるようにという思いから、子ども読書週間中の行事をいくつか特別版にして行い、行事の中で「子ども読書の日」や「子ども読書週間」についての紹介を行うことにしました。

具体的には、特別行事の「子ども読書の日よせて」が四月二十六日(日曜日)午後三時から四十分間、「子ども読書の日 かみしばいのじかん」として二十三日(木曜日)と二十五日(土曜日)に午後三時から三十分間をそれぞれ職員二名で行いました。

職員が行事を行う場合、準備や練習などに時間をとられることから、なかなか回数や時間、内容を増やすことは厳しい状況でしたが、読書週間中に三回行うことができました。

その他に読み聞かせボランティア「さいろいたんぼぼ童話の会」の皆さんのご協力を得て、「子ども読書の日 えほんのじかん」を二十二日(水曜日)午後三時から四十五分間



「えほんのじかん 手品を披露」

子ども読書の日 えほんのじかん

行いました。

はじめての趣向として、えほんの話に入る前に手品を披露していただきました。子どもたちにとって目の前で見える手品はとても魅力的だったようです。一生懸命に見て、しっかりと楽しんでくれていた姿が見られました。



「あおむしの食べたものを確認しています」

子ども読書の日 かみしばいのじかん

会ごとにテーマを決めて行いました。二十三日は「春の野原」を感じられるものを選びました。手あそびは「キヤベツの中から」で指を「あおむし」にして楽しみ、紙しばいを二点と大型絵本の『はらぺこあおむし』を読み、最後に工作で「あおむし」を作りました。『はらぺこあおむし』では子どもたちが、絵本がめくれないほど前によってきてくれたり、あおむしの食べたものを指さしながら教えてくれたりと積極的に参加してくれていました。工作は今読んだ絵本に出ている「あおむし」を作るので一層親しみをもってくれたようでした。



「大型絵本『いただきバス』を読んでいます」

二十五日は土曜日でしたので人数も多かったのですが、お話も静かに聞くことができ、メリハリの利いた会になりました。テーマは「おでかけ」で、手あそびは「おべんとうばこ」でした。子どもたちに聞きながら、小さいお弁当は「だんごむし」、大きいお弁当は「怪獣」の作りました。紙しばいや絵本の『999ひきのきょうだい はるですよ』、大型絵本『いただきバス』などを読みました。工作はストローを使った「花トンボ」で、子どもでも簡単にできて、飛ばしやすく好評でした。

子ども読書の日によせて

二十六日の特別行事では、「ちいさなはたけ」の手あそび、大型絵本



「絵本『おなべ おなべ にえたかな』読みきかせ」

『おかしなかくれんぼ』や絵本『おなべおなべにえたかな』、紙しばいの読み聞かせとパネルシアター、工作ではお花を作って咲かせて遊びました。

場所は二階のホールで行ったので、児童コーナーから離れており、おはなしに集中できたようです。また参加型の絵本や紙芝居には元氣よく声を出してくれていました。

どの会でも手あそびや工作は好評でした。また、テーマに沿った選書をする事でより興味を持って絵本や紙しばいを聞いてもらえていたと感じました。

乳幼児と保護者参加の行事

子ども読書週間中ではないのですが、中央図書館で最近始めた行事が2つあります。一つは、一歳くらいまでの赤ちゃんとその保護者を対象とした「読み聞かせ体験」(平成十九年十一月から)です。もう一つは、幸町図書館で行っている一歳から三歳の幼児を対象とした「おやこら」を中央図書館でも始めました。この二つの行事を始めてから、小さなお子さん連れの利用者が増え、ほかの行事でも参加者の大部分が赤ちゃんということもあります。

乳幼児と保護者が参加する行事を行うことによって、保護者にも絵本の世界の楽しさを一緒に体験をしていただく機会となり、ご家庭での読み聞かせなどの参考にもしていただいていると考えています。

公共図書館での行事は、年齢も人数も特定できません。参加者を見て、臨機応変に対応できるように心がけていきたいと考えています。

岡山県図書館協会活動報告

新会員紹介

(施設会員)

浅口市立寄島図書館

(個人会員)

- 高井 保昌 (岡山県立図書館)
- 谷本智恵子 (岡山県立図書館)
- 善木 典永 (岡山県立図書館)
- 三宅 直子 (岡山県立図書館)
- 古谷 祐子 (岡山県立図書館)
- 平井 敦子 (岡山県立図書館)
- 木下 歩 (岡山県立図書館)
- 角田 恵美 (岡山県立図書館)
- 上田のぞ美 (岡山県立図書館)
- 石川 達也 (岡山市立中央図書館)
- 石田 藍 (岡山市立中央図書館)
- 来栖佐和子 (岡山市立中央図書館)
- 寺見ひとみ (岡山市立幸町図書館)
- 窪田恵理子 (岡山市立西大寺図書館)
- 高取 明美 (津山市立図書館)
- 中島 実 (津山市立図書館)
- 松浦 伸治 (笠岡市立図書館)
- 奥野 快生 (笠岡市立図書館)
- 猪原 真理 (井原市井原図書館)
- 竹中 史朗 (備前市教育委員会)
- 宇野 信行 (備前市立図書館)
- 小坂 貴恵 (赤磐市立中央図書館)
- 藤原 輝之 (赤磐市立熊山図書館)
- 長田 忠芳 (赤磐市立吉井図書館)
- 横谷 朝久 (和気町立図書館)
- 藤井 安芳 (里庄町立図書館)
- 塩見 智子 (蓮昌寺仏教図書館)
- 田淵 博史 (くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学附属図書館)
- 寺山 節子 (中国学園図書館)
- 河崎 雅人 (岡山学院大学・岡山短期大学図書館)

期大学図書館

- 堀田真由美 (環太平洋大学附属図書館)
- 奈良 裕子 (環太平洋大学附属図書館)

定期総会報告

平成二十一年度定期総会は五月二十五日に開催されました。主な決定事項をご報告いたします。

●平成二十一・二十二年度役員

参与

石田 善顕 (岡山県教育庁生涯学習課課長)

会長

西山 猛 (岡山県立図書館館長)

副会長

石川 達也 (岡山市立中央図書館館長)

宗 巴 (倉敷市立中央図書館館長)

有澤 勝子 (早島町立図書館館長)

倉地 克直 (岡山大学附属図書館館長)

理事

杉山 雄史 (津山市立図書館館長)

久保 直登 (総社市図書館館長)

福意 昭教 (新見市立新見図書館館長)

正好 尚昭 (赤磐市立中央図書館館長)

柿内 美子 (鏡野町立図書館館長)

金光 和道 (金光図書館館長)

野村 公江 (倉敷市立短期大学附属図書館館長)

窪津 誠 (岡山商工会議所専務理事)

菱川 廣光 (個人会員・日図協評議員)

本山 雅一 (個人会員・日図協評議員)

池田 桂子 (個人会員・日図協評議員)

久戸瀬瑞季 (個人会員・県青研委員長)

高井 保昌 (岡山県立図書館副館長)

監事

竹中 史朗 (備前市立図書館館長) ※

藤井 安芳 (里庄町立図書館館長) ※

※備前市立図書館長は7月1日付異動により宇野信行氏が着任されました。

●平成二十一年度図書館功労者表彰

次の方々が表彰されました。おめでとうございます。

大村 文誉 (岡山県立図書館)

森山 光良 (岡山県立図書館)

●平成二十一年度研究奨励金交付

次の研究に決定いたしました。おめでとうございます。

研究題目「リファレンスサービスを

利用したビジネス支援策」

研究者「岡山商工会議所」

●編集後記

今年度より事務局員となりました角田です。よろしくお願いいたします。

平成二十一年八月三十一日

〒七〇〇一〇八二三

岡山市北区丸の内二一六―三〇

岡山県立図書館

メディア・協力課 図書館協力班内

岡山県図書館協会

会長 西山 猛

(〇八六) 二二四―二二六九